

平成27年度第1回障害者支援センター運営委員会 議事録

■開催日：平成27年6月22日（月）午前10時～午後12時

■場 所：横浜市健康福祉総合センター9階 901・902会議室

■出席者：委員総数14名中12名出席

大塚委員、松島委員、渋谷委員、永田委員、八島委員、八木澤委員、下山委員、
三橋委員、室津委員、谷口委員、増田委員、茨木委員
（オブザーバー）横浜市3名（君和田課長、高島係長、佐藤係長）
横浜市社会福祉協議会2名（芳賀常務理事、宮川事務局長）

■議 事

（森センター長）

皆さん、今日本当に貴重な時間を我々に与えていただき感謝している。支援センターもこの4月から大きく衣替えをし、新しい組織になったので、新しいメンバーを紹介する。小嶋さんは今年度よりスーパーバイザーの立場で支援センター全体のことを、見てもらうという事になる。今後とも宜しくお願ひしたい。

新規事業の受託などにより課を新しく組み替えた。管理課と監査担当を統合して、事業推進課とした。共同受注窓口を受託したがこの業務は事業推進課が担当する。課長は小野が担う。

また、支援課は、課内に後見的支援担当課長を配置した。課長は手代木が担う。

その他の職員として、共同受注窓口の担当の新垣、支援課に配属された斎藤と服部を紹介する。今日も含めて今後ともよろしくお願ひしたい。

（小野事業推進課長）

定足数確認。12名出席。委員会の成立を告げる。

（谷口委員長）

12時までの会議となるが、よろしくお願ひしたい。早速にはじめさせてもらう。

○議題

（1）障害者支援センター運営委員会委員について

（谷口委員長）

議題1「障害者支援センター運営委員会委員について」説明いただきたい。

（小野事業推進課長）

資料1に基づき説明。神奈川新聞厚生文化事業団専務理事の鎌田委員が3月31日をもって退職したことに伴い、後任として同じく公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団の増田専務理事を、

委員として委嘱する。任期については前任者の在任期間となる。

(増田委員)

紹介のとおり鎌田から引き継ぎ、委員として就任した。皆様よろしくお願ひしたい。

(小野事業推進課長)

内田委員の後任については、選出母体であるセイフティーネットプロジェクト横浜に委員選出を依頼する。また、検討している精神障害者関係者と学識経験者を委員に追加する件は、昨年度3月の委員会で事務局に一任となっているが、谷口委員長を含め現在まで検討中である。精神障害者関係者については大友委員・谷口委員長の意見を聞きながら、検討を進めており、次回の委員会で報告する。

(谷口委員長)

先日、大友委員を迎え、ヒアリングの機会を設けた。その結果で、分かったことは、非常に多くの方がおり、また非常に多くの方が入院されており、医療との関連が課題であること。今後、勉強会を行いながら新委員の参加について検討していく。

委員の変更についてよろしいか。

(一同)

了承。

(2) 平成26年度障害者支援センター事業報告及び決算について

(谷口委員長)

議題2「平成26年度障害者支援センター事業報告及び決算について」説明いただきたい。

(小野事業推進課長)

資料2に基づき説明。

(谷口委員長)

質問等があればどうぞ。

(三橋委員)

活動ホームの大規模改修について、何か決まり事があるのか。活動ホーム連絡会では建て替えの支援を市に対して要望しているが、なかなか叶わない。これからの時代で、改修と建替えの兼ね合いをどう考えたらいいのか。

(小野事業推進課長)

建て替えについては、毎年度予算要求しているが、予算化されていないので、大規模修繕で対応せざるを得ない。

(三橋委員)

大規模修繕があれば建て替えはなしということか。その説明がないまま大規模修繕が始まっている。

(村岡事務室長)

機能強化型活動ホームについては相当の年数が経過し改築も考えていかなければいけない時期だが、横浜市の財政状況などで、当面は大規模修繕で対応していき、順次予算要求している。今後、検討している活動ホームのあり方を踏まえて横浜市に問題を伝えて協議をしていく。

(谷口委員長)

「感謝の集い」は、受賞者と参加者が意外と少なく寂しい感じがしている。感謝状贈呈だけでなく、課題提起や取り組みが必要なことの発信の場でもいいのではないか。

感謝の集いはもっと賑やかにしたい。

(森センター長)

来年は、頑張って面白い会を作っていく。

(松島委員)

あゆみ荘についてだが、障害者は、ベッドの部屋が必要な人が多いが、2部屋しか洋間がない。和室に簡易ベッドを入れる対応をしているが、洋間でないと利用できない障害者が増えている。洋間を増やしてほしい。

(有賀あゆみ荘所長)

あゆみ荘は、全13室のうち2部屋のみが洋室となっている。洋間を増やしてほしいという要望は他にもあるが、洋間化により定員減となるため実現していない。今後も横浜市の担当部局の方との調整をしながら検討していく。

(谷口委員長)

支援センターの業務も拡大していく。この事業報告については、全体的な分析と展望・成果を報告すべき。社協の事業報告で1番の欠点は成果をPRしないこと。

(森センター長)

今回は、今の意見を意識してまとめることとする。

(茨木委員)

人権擁護事業はとても大事だと思っている。高齢者領域にも広げていくべき活動だと思う。モニター活動について、モニター委員はどんな方がなっていて、どんな活動をしてきたのか。結果何が問題で、難しかったことがあったのかを聞きたい。

(村岡事務室長)

モニターは、弁護士や当事者の家族・社会福祉士といった様々な立場の方をお願いしている。2人1組で訪問し、入居者から直接お話を聞いた後、報告が支援センターにある。何か問題がある場合には運営者側の方と話をするという場面も設けている。

(江本支援課長)

この事業は、グループホームから始まり、日中活動の場に拡大させてきた。専門家や家族・当事者と様々な立場の方が訪問している。事前のアンケート・当日インタビューで、事前の振り返りを行うことができ、また職員がふだんの関わりでは気づかないようなことが発見される。

(下山委員)

モニター委員として活動している。個別に利用者から生活のことなど細かいことまで聞くことで、外の目が入るという機会となりこの活動が有効だと思っている。

課題としては、手挙げ方式でモニター活動を行っていること。全箇所を対象にして活動を行う必要があると感じる。

(八島委員)

親の立場でモニターをしている。モニター委員に新しい親が参加できたらよいと思う。

モニター活動の様子は、職員の予想とはかなり違う。たくさん話すと思った人が余り話さない、その逆もある。こういう場を通して新しい風が入ってくる。そのところの意味合いは非常にある。

それからもう一つ大事なことは、親がもっと勉強しなければいけないという事。グループホームという制度があるからそれを利用すればよい、ではなく、本人たちが地域で生きていく上で、現実的に、グループホームで暮らすとどういう事になるかは、いろいろグループホームを見てみないと分からない。

親自らが勉強して、生活者の目をそこに入れていき、グループホームという制度をもっと豊かにするためには、親はもっともっと努力すべきだと思う。

(江本支援課長)

追加でご説明する。数年、B型グループホームについて、このモニター事業の趣旨を理解いただき、モニターに入っている。この活動を受け、今年ここにも入って欲しいという提案を頂くこともあり、少し芽が出てきたのかなという感触も持っている。

(谷口委員長)

実績を積み重ねてきたので、ランダムでモニターを行うということもあっていいと思う。全体会では、弁護士のモニターから意見が出ていた子ども扱いをするということ。それを職員が親切に対応していると誤解している。それがどうしても修正がきかない。

(茨木委員)

この「モニター制度」はとてもいい仕組み。広くアピールし意義を理解すれば、手を挙げる所も増えてくるであろう。受けないことが恥ずかしいことになる位になればよい。

(三橋委員)

以前モニター委員をしていた。どんな立場の人であっても、不思議なくらい感想や問題点が共通していた。生活という視点で見るから共通点がある。色々な人が行くことが有効だと思う。

(室津委員)

もともとグループホーム連絡会で、スタッフから希望があり始まった仕組み。これは広げるべき仕組みなので、支援センターとともに取り組んできた。

事業報告書では、法人型グループホームのモニターが29回と書いてあるが、横浜市の計画では1年間に40カ所グループホームが増えていく予定。同程度の回数が継続されるのであれば、モニター活動が行われないグループホームが増え続けるという事になるので、回数も含めて考えていかなければならない。

(渋谷委員)

以前、モニター委員をしていた。手厚い支援に繋がっていくと思うが、同時に必要以上に保護していくことに結びついているという思いがずっとある。大事なことをどう伝えていくのが大切に思う。

(八島委員)

グループホームは生活の場面。だからモニターすべきは一人ひとりがどんな思いで暮らしているのかということ。それぞれの制度がちゃんと守られていますか、というモニターも大事だが、サービス提供側のモニターになってはいけない。本音のところではどんな思いで暮らしていますかというのをきちんとモニターしていくことが大切。

(下山委員)

「重心生徒の進路状況に係わる連絡会議」を3月に開催した。重心の人たちの卒業後の受け入れ先が本当に厳しい状態になっており、卒業生は1箇所週5日の利用先が確保できず、複数事業所でなんとか5日間を確保している状況。重心の場合、医療的ケアなど受け入れの難しい要素があるが、支援センターでも継続しこの問題と一緒に取り組んでいただきたいと思う。運営委員の皆様にも、深刻な問題だということを理解いただきたい。

(谷口委員長)

どういう先進事例があるか、日本国内でどういう支援をしているか、情報収集は行われているか。

(下山委員)

他の地域の方からは横浜は重心の支援を進めていると言われることが多いが、人数も多いので充分とは言えない。毎年卒業生がある中で、その人たちを受け入れる場が増えていないのが現状。多機能型拠点もあるが、次の開設は29年度。今度の卒業生を全然見込めていない。地域生活を考えると多方面の受け入れ先が必要。しかし、多機能型拠点が増えれば課題が解決されるわけではない。

医療的ケアは、認定を受けることで医療職じゃなくても医療的ケアの対応することが可能だが、このことのハードルは高く、人数的に増えていない。システムはできても現状としてはなかなか難しいという状況である。

(八木澤委員)

障害児地域訓練会についてだが、運営費の助成は対象児童が10人以上となっている。放課後支援の事業所が増えているなかで、訓練会をどうしても必要だと考える親が少なくなっているように感じる。備考欄の記載にある4月に10人に満たなかったグループがある。新規にランクを設け最低対象児を8人とするのはいかがか。一六検診後の家族の気持ちの葛藤も考慮し、区の全ての保健師が全員訓練会の説明している訳ではない。4月では、入会の意思ははっきりせず、9月や10月頃になって、やはりうちの子大変、と入会する家族もいる。

(村岡事務室長)

年度途中で保健師からの紹介で入会する方もいるので、入会の見込みがある場合は助成している。

(谷口委員長)

事業報告および決算についてよろしいか。

(一同)

了承。

(3) よこはま障害者共同受注総合センターについて

(谷口委員長)

議題3「よこはま障害者共同受注総合センター」について説明いただきたい。

(小野事業推進課長)

資料3に基づき説明。

(谷口委員長)

この「共同受注総合センター」というのはどういう方向を目指すものなのか。受注を作業所型等にどんどん取り込んでいくための仲介者なのか、あるいは企業に出ていくサポートをするのか。

(小野事業推進課長)

障害者プランでは、登録施設の工賃を10%アップすると記載されている。現在は障害者施設の利用者の工賃の向上と、社会参加という意図も含めてコーディネートとしていく。

(谷口委員長)

苦情処理も対応するのか。

(小野事業推進課長)

基本的にはコーディネートで、契約当事者ではないが、発注側と受注側の双方と調整をしながらすすめていく。

(三橋委員)

販路拡大事業とこの事業との棲み分けはどういう風に考えているのか。

(小野事業推進課長)

受注センターの受託プロポーザルでは、いずれハートメイド事業と拡大事業の調整をとりながら進めていくとしている。来年度から一体化するという判断はまだしていない。

(谷口委員長)

共同受注センターについてよろしいか。

(一同)

了承。

○その他

(谷口委員)

その他何かあればどうぞ。

(小野事業推進課長)

連絡協40周年記念誌お配りしている。

(八木澤委員)

40周年記念誌が完成した。活動開始当初からの色々な冊子を見ながら作ってきたが、本当にすごい活動をしてきたとあらためて感じた。

私たちの中でも育てる環境が数段によくなってきたと思うが、やはり子供が望む本当に豊かな生活ができているかは疑問に思っている。これからも少しずつ議論を重ねて、頑張っていきたいと思っている。「神奈川新聞厚生文化事業団」の助成金もいただき作ることができた。ありがとうございました。

(八島委員)

訓練会の意味は本当に大きい。私は、神奈川区に住んでいて、相談センターで「麦の会」を紹介された。そこで初めてこれだけたくさんの色々な障害をかかえている方が居ることを知り、気持ちが変わった。やはりこの現場が、まさに自主訓練会という自分たちでやっていくという意味合いが非常に大きかった。今心配しているのは、サービスが充実してきたことで、それを利用した方が簡単で楽だからという考え。それでは、障害児が育っていく環境を整えていくことは難しいと思う。そこが40年間の本当の意味だと思う。それをどんな形にせよ残していけるのか、ということが分かれ目になる気がする。

(谷口委員長)

やはり歩みはきちっとまとめていかなければいけない。我々歴史を本当に客観化する目を持った記述も含めてまとめていかなければならないと思う。

(森センター長)

今日は時間をとっていただきありがとうございました。また少し先になるが、できる限り次回も充実した議論ができるように用意したい。今日は本当にありがとうございました。

次回 12月7日月曜日 午後1時～ 8階8F会議室